

平成30年度

第3回駒ヶ根市総合教育会議

会 議 録

駒ヶ根市教育委員会

平成30年度第3回駒ヶ根市総合教育会議議事日程

平成30年12月14日（金曜日）

駒ヶ根市役所保健センター2階大会議室

午前10時00分 開 会

1 開会

2 市長・教育委員長あいさつ

3 協議事項

(1) 3カ年実施計画（2019年度～2021年度）について

(2) 2019年度予算について

4 その他

次回総合教育会議 開催予定：4月（2019年度第1回）

内容：2019年度事業の推進について

5 閉会

出席者

教育委員会

教 育 長	本 多 俊 夫
教 育 長 職 務 代 理 者	下 島 公 平
教 育 委 員	福 澤 惣 一
教 育 委 員	唐 澤 浩
教 育 委 員	氣 賀 澤 知 保

市長部局

市 長	杉 本 幸 治
総 務 部 長	小 平 操
地 域 保 健 課 長	酒 井 宏 道

市長部局事務局職員

教 育 次 長	北 澤 英 二
子 ど も 課 長	北 原 純
社 会 教 育 課 長	小 出 孝 幸
保 健 セ ン タ ー 所 長	中 坪 美 智 子
生 涯 学 習 係 長	入 谷 吉 博
教 育 総 務 係 長	山 本 和 重
教 育 総 務 係	小 松 義 知

会議のてんまつ

議事日程記載のとおり

午前10時00分 開会

○北澤教育次長 こんにちは。(一同「こんにちは」)

大変お忙しい中、総合教育会議に出席いただきましてありがとうございます。

本日は民生部長欠席により、代理で地域保健課長が出ておりますのでよろしくお願い致します。

ただいまから、平成30年度第3回駒ヶ根市総合教育会議を始めさせていただきたいと思います。

本日の進行については、教育次長の北澤で行いますのでよろしくお願い致します。

それでは、次第に従いまして最初に杉本市長よりごあいさつをお願いします。

○杉本市長 おはようございます。(一同「おはようございます」)

きょうは平成30年の第3回の駒ヶ根市総合教育会議ということで御出席をいただきましてありがとうございます。

もう、早いもので、ことしももうわずかで終わりでございます。ことし一年間を振り返ってみますと、ことしの1字が「災害」の「災」でありますけれども、まず1月は大雪で、福井県では車が全部立往生してしまったということで、今回、チェーン規制が新たに加わるようになったということで、そういう意味では、福井市が財政的にパンクしてしまっていて、今、職員の給与もカットして災害復旧費に充てているというような状況であります。それが終わって一段落したら、今度は大阪の地震が5月、もういつ地震があったか忘れてしまいそうな大阪、特に大阪の地震ではブロック塀が倒れたということで、子どもさんが犠牲になったということもありまして、今ブロック塀の撤去が言われております。うちのほうでも緊急点検をさせていただいて、何箇所か撤去しなければいけないブロック塀がありましたので、補正の中でブロック塀を撤去するための補助制度もつくらせていただきまして、今、申請等を受け付けているところかと思えます。私も市内を歩いていますと、今ブロック塀を直していただいている方が何件かありますかね。

それから、次は夏の猛暑です。もう今までにはないような、もう災害に等しい猛暑ということで、それを受けて全国で学校へエアコンを緊急的に設置するというので、駒ヶ根市も、過日、臨時の市議会をお願いいたしまして、予算を可決していただき、12月に入りましてから国のほうから補助事業の内示がありまして、100%ではないのですがけれども、91%くらいの補助をいただけましたので、予定どおり進めたいと思えます。設計を発注していますので、設計ができ次第、本体も発注したいと思えますけれども、いずれにしても、日本全国、上伊那も含めて発注しますので、果たして物がそろうのかどうかと心配しています。

それから、北海道の地震、これによって本当に土砂災害に対する怖さというのを改めて感じまして、それを受けまして、国のほうでは緊急点検、今回また補正で7兆円くらいですかね。これからは災害を予防していかないと、災害が起きてから今まで日本は対応しているので、すごく膨大なお金がかかってしまう。それよりも予防のほうにお金をかけるということで、特に河川の関係、それから砂防の関係等、力が入るようでございます。その後、駒ヶ根市も台風21・24号ということで、大きな人災はなかったのですがけれども、最近でも珍しく避難勧告等を出すような状況になりました。特に、その中では教育委員会の関係、ハーフマラソン大会、どうしようかと悩んだのですがけれども、やって、評価としては、ことしもハーフマラソンの部では、今のところ

は第2位ということです。いろいろ悩みましたけれども、改めて大会等の開催を決定することの難しさを知りました。うちは実行して、松本が中止になってしまって、逆に、松本のほうが中止にしたことによって、その後、市長が記者会見するというようなことでしたので、そういう点ではやってよかったのですが、そういうことの決断の難しさも感じたところでございます。そうやって振り返ってみますと、やはり災害が多い年だったのかなって、本当、それによっていろいろな政策が大きく変わった年のような気もしているところでございます。

そうした中で、子どもを取り巻く状況ですが、耐震のほうは、赤穂小学校の体育館のつり天井を直ささせていただいて、これで全部終わったということですかね。耐震のほうはおかげさまで全て終わることができました。

それから、あと、これからの教育等を進めていく上で大きな課題というのは、前にも話した少子化ですかね。昨年一年間が236人、ことしは11月末現在で222人という状況でありますので、残念ながら、この少子化についてはなかなか、いろいろ取り組みをしているのですがけれども実効が上がっていないというところでございます。やはり子どもの数が少なくなるということは、これからの駒ヶ根市が進めていきます施設整備の関係から、さまざまな面で、今までは大体300人ぐらいで推移するという想定でいましたので、これからは過剰投資にならないような、また子どもたちにとってどういうことがいいのかというのを、また、ぜひ教育委員の皆さんにも十分御議論いただく中で、これから先を見通した計画をつくっていただきたいなと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

あと、地域交流センターでありますけれども、昨日、入札が終わりまして、おかげさまで業者が決まりましたので、予定どおり事業が進められるのかなと思っておりますのでまたよろしくお願ひしたいと思います。

また、あとは、懇談する中でいろいろ意見交換したいと思っておりますので、教育委員の皆さん方には、駒ヶ根市の子どものために御尽力いただけますようお願いを申し上げましてあいさつとさせていただきます。

どうぞよろしくお願ひいたします。

○北澤教育次長 続きまして、本多教育長よりごあいさつをお願いします。

○本多教育長 改めまして、こんにちは。(一同「こんにちは」)

第3回の総合教育会議、本当にありがとうございます。お世話になります。

私のほうからは、中学校の話は少ししたいと思いますけれども、中学にとっては、行事というのはとても大事な柱になっています。ことしも、赤中の場合には、文化祭、運動会、合唱コンクールという、子どもたちは俗に3大行事なんて言っていますけれども、また、東中のほうも文化祭の中での合唱やふるさと学習等、生徒が企画して運営し、反省して次に譲るといようなことをやっていて、非常に自立した姿が見られて、内から育っているなあということを感じとして持っております。校長さんたちに聞いてみますと、例えば時間の保障されている総合的な学習の時間当たりが、どうしても先生が用意したような時間になってしまうといようなことを言っておりました。これは本末転倒であって、それこそ子どもの力を少し見くびっているといのですかね、大人が用意しないとできないのではないかという錯覚を起こしているなあというふうに思います。この時間が保障されてもう15年近くたっているにもかかわらずという思いが私自身には、本当に苦々しく思うわけでございますけれども、大人に与えられたことやものといのは、必ず限界

が生じます。子どもは責任もとりません。だけれども、自分たちの発想で一生懸命やったものは、どんなわずかなことでも最後まで責任をとりますので、そういうような発想で今後はやっていかなきゃいけないなあということをつくづく思っております。

この総合教育会議でも、非常に教育全般でございますけれども、本当に熟慮していただいて、熟慮、断行、先ほど市長さんの悩みに悩んで、本当にハーフマラソン、最後は断行したという、本当に熟慮、断行の姿勢で、本当に意見を交換できればいいかなというふうに思っております。

よろしく申し上げます。

○北澤教育次長 それでは、お手元の次第に従いまして会議を進めていきたいと思っております。

現在、第4次総合計画に基づきまして後期計画というものを検討中ではありますが、策定されました教育大綱に沿って審議を進めているところでございます。前回、ごあいさつの中にもありましたように、第2回の総合教育会議で、向こう3年間の事業実施計画をつくって、3カ年計画を協議してということで意見交換をさせていただきました。お手元に配布してあります駒ヶ根市の実施計画3カ年計画については、第2回の会議の意見などを踏まえ策定してございます。この実施計画については、本日の主な会議事項となっております平成31年度の予算編成の指針となるものでございます。

なお、実施計画につきましては、前回の定例教育会議の中で説明をさせていただきましたので、本日の説明は省略させていただきます。

本日は、本題であります次第の協議事項(2)の2019年、平成31年度、次年度予算についての意見交換の資料とさせていただければと思います。

それでは早速ですが、お手元に平成31年度、2019年度の教育委員会主要事業の取り組み方針ということで意見交換の参考資料として用意させていただいております。

少し説明いたしますが、3カ年計画実施計画に計画された事業のうち次年度実施事業を中心に、また次年度以降の部分も含めましてまとめてあります。資料の中で何点か説明させていただきたいと思っております。

まず1ページですが、(1)の学力向上については、引き続き専科教員、ALT等の配置、学校支援ボランティア、標準学力テストICTの機器整備等の検討による学習支援であります。

また、下段の(2)の地域に開かれ、地域に支えられる学校づくりでは、ロのキャリアフェスの開催で、平成30年度は赤穂中で実施いたしました。11月16日金曜日に実施され、多くの企業さん、また新しいことに挑戦するアントレブース等を含めまして50社以上の事業所の方も参加されました。

(3)のイの小中学校のエアコン整備では、ごあいさつの中にもありましたように、この夏の猛暑を受けまして、国の補助金を利用し整備を進めるものでございます。基本的には普通教室、特別教室棟について整備を予定して、現在、設計を進めているところでございます。

おめくりいただきまして2ページであります。

2ページについては、幼児教育の推進ということで事業を載せてあります。

(4)のへの2019年10月から予定される幼児教育の無償化の検討等が進められております。国より一定の方向は出てきておりますが、詳細については、まだ不明な点も多い状況でございます。

また、続きまして同ページの(3)の発達特性に対する支援で、新設する赤穂公民館に、つく

し園を併設して整備します。そして、新設にあわせて保育所等の訪問支援や専門職による相談業務の充実のために児童発達支援センター化の検討を行うということで検討しております。

右側の3ページをごらんください。

家庭づくりや妊産婦支援や産後ケアに関する事業を記載してあります。

3ページ一番上の「子育てによるこびを感じる家庭づくり」の部分の(3)では、第2期子ども・子育て支援計画の策定を次年度に予定しております。現在、子育て世代、就園前の家庭、保育園・小学校世帯に対しまして、少子化対策のことも含めましてアンケートを実施している状況であります。

また、3ページ一番下の下段のエル・システマ事業につきましては、現在2年目を迎え、来年度で3年目を迎える状況であります。音楽を通じて子どもたちの生きる力を育む事業ですが、引き続き小学生を中心に実施していくもので、一部、現在6年生の方が中学へ進学されるということで、中学校にも広がってきている状況でございます。

おめくりいただきまして4ページです。

4ページの6の「生涯学習活動の推進」の(2)地域交流センターにつきましては、ごあいさつにもありましたように、施設整備については業者が決まり、建築の部分の詰めている状況であります。赤穂公民館の建替え、小ホールの新設などに関するもので、現在、解体が進みまして、建設を次年度の末までにということで目指している状況であります。文化センターとあわせまして、これからの文化、芸術、生涯学習の拠点となるよう進めていければと思っております。

下段の7の(2)では、今後の文化、芸術に関して、第4次総合計画の検討とあわせまして、文化芸術振興懇話会で協議をいただいております。今現在、当面の課題、現状の課題、目指す姿等を議論いただいているところであります。

8の(2)ですが、国体への対応を進めるということで記載をさせていただいております。

資料の説明については以上とさせていただきます。それでは、教育委員さんのほうから新年度予算に向けての御意見をいただければと思います。

なお、これ以外については、予算のほうの議論の後で出していいただければと思いますのでよろしく申し上げます。

それでは、よろしくお願いたします。

○福澤委員 それでは、来年の10月からですけれども、保育の無料化、これが始まって今話題になっておりますけれども、それが再来年の3月までは国が実施の期間で、それから後はそれぞれの市町村でということになっているわけですが、やはり市としても、ここに書いてありますように、子育て支援というのは、不妊治療だとか、子どもの医療費の減免だとか、ひとり親だとか、多子世帯の支援だとか、相談体制とか、そういう部分を整えて今まで取り組んでいるわけですが、それにかかる費用も当然あるわけですが、市で残りを負担するということに対して、国のほうから交付金が、消費税分だとか、いろいろ来るとは思いますけれども、それで間に合うかどうかということがあるので、もし足りなければ、そちらのほうへ影響が出るのではないかと不安もありますし、お母さんたちは、もうとても期待しているし、そうかといって、保育園の園長先生たちと話をすると、何か、逆に今度はこっちの負担が増えちゃ困るというような不安もあるようです。今、一時預かりなど、そういう部分で先生たちもかなり奮闘しておりますので、そういうところに影響が出るのではないかと見通しをお伺いしたいと思います。

○杉本市長 この問題、非常に市長会を含めて、私たちも、当初は、消費税を上げるときの前回の選挙で保育料の無料化と国が言ったので、当然、国が100%見てくれるという想定で私どももいたところですが、案で示されたのは、半分はそれぞれの基礎自治体で見てくださいという話ですので、少し話が違うのではないかとということ。

それから、もう一つは、無認可保育所も今回の保育料無料化の対象にするとしたわけで、無認可保育所については市町村が全く関わっていないのですよね。それは、県の児童の管轄になっているので、それが、今回無認可も償還払いだということになったので、無認可保育所でこれだけの保育料を取りましたと市町村に来たら、市町村がそれを払えというような仕組みになっているので、そういうことになると保育の質の問題も問われるのではないかとということで、今、私たちは、とてもじゃないけれど対応できないということで話をしてきて、12月10日に一応の決着を見たのですけれども、その決着は、市町村立の保育料については、その保育料の額を交付税の支出に全額見てくれるということになりまして、それを支出と見た上で交付税の計算をする、ですので、収入のほうには消費税の地方消費税交付金も入ってくるのですけれども、その総額を増やして総額全体を増額確保した上で算定してくれるとなっています。そうなれば、交付税などで見てくれるというのはいいのですけれども、よくあるのが、交付税総額が増えないともう見たうちにならないので、今そういう心配はあるわけですがけれども一つのフレームができたということになっています。

それから、私立の幼稚園やなんかの負担金が、今まで国3分の1、市町村3分の2を、今回、国が2分の1、都道府県4分の1、市町村4分の1ということでは、今回、決着を見ました。

それから、そのほかの認可外保育施設等に係る関係については、無償化による質の確保など、それらについては、今後、国のハイレベルといいますか、要するに内閣府の特命担当大臣、文部科学大臣、厚生労働大臣と地方3団体がP D C A協議会というのを立ち上げて、その中で具体的に協議していくということになったということ聞いています。ですので、まだ不透明なところが非常に多いわけですがけれども、一定の決着を見たということでもあります。市長会としては、今のところ来年10月の導入はとても難しいと言っています。今回、今御説明したように、来年10月以降が全く決まっていないという状況ですので。

同時に、あとは、無償化ということになるので、今まで3歳児以上はほとんど100%ですけど、3歳児未満の人たちがどういう状況になるのかわからないといったこともあったりして、少しまだまだ不透明なところが非常にありますので、いずれにしても、これから早急に国のほうでいろいろが詰まってくると思いますので、それを受けて本当に10月に間に合うのかということになると不透明なところが多過ぎて心配です。いろいろな市町村で、無償化ということになると待機児童ということが、うちも今ほとんど満杯と言っていますので、そういう課題がありますので、いずれにしても、今後、国のほうを見ながらやらざるを得ないのかなと思っています。

それから、施設のほうも果たして今のままでいけるのか、確実に未満児が増えていますので。

○北澤教育次長 そうですね。3歳以上児のあいている部屋を未満児に変えたりして。

○杉本市長 1部屋はね、3歳児のところを未満児用に少し変えるようにします。今のところの予定では、平成31年度はそれで行けますけれども、次の年度がどうなるかということになると不透明で、無償化ということになれば多分増えるのではないかなと思います。

○福澤委員 保育士さんの数というのは。

○杉本市長 そういうこともあります。

○福澤委員 1人で3人しか見られないとこの間言っておりましたけれど。

○杉本市長 3歳児以上なら20人くらい見られるけど、それが3人に1人とかになったら、本当に保育士さんが確保できるかということもあるので、さっき言った質の問題というのはそういうところなんです。これからしっかり話をしていかないと大変だと思います。何かあれば、やはりお母さんたちも期待しているので応えなきゃいけないし、保育料だけで今1億5,000万円くらい入っているのが無償化になったので、交付税でそのくらいは見てくれるようになればいいですけどね。逆に、未満児がどんどん増えていったら、今度は保育士さんの人件費がどんどん増えてしまいますので、これから財源の問題とかも国等とやりとりしていけないといけない課題かなと思います。

○福澤委員 わかりました。

○北澤教育次長 よろしいですか。

○福澤委員 はい。

○北澤教育次長 続きましてお願いします。

○唐澤委員 それでは、文化・芸術振興について聞きたいのですけれども、文化芸術振興指針というものをこれから決めることになると思うのですけれども、それを少し見させていただく中で、「文化芸術」というのは、これについては、国のほうでこれですよと定義されているみたいなのですけれども、それを議論していく中で、文化と芸術が、もうごちゃごちゃになって議論されているような気もするのですけれども、芸術って、もともと団体も含めて個人的なものだと思うのですが、高い技術を持って成り立つとか、そういうことに対して、「文化芸術」に対して、振興に対して、住民へのサービスとして、生涯学習という観点から、いろいろこちらで手配していくのは妥当なことだと思うのですけれども、それを観光とかまちづくりに結びつけるということがすごく短絡的というか、難しいような気がするのですけれどもその辺いかがなのでしょう。

○杉本市長 これからのまちづくりをしていく上で、やはり地域の特色を私は出していかなきゃいけないと思うのですよね。そういう中の一つに、それぞれの、駒ヶ根市なら駒ヶ根市が今までどういう歴史や伝統文化を持ちながら成り立ってきたかということは、やはりそれぞれの人たちが本来知っているべきだと思うのですね。でも、何か、往々にして新しいもののほうを追っかけ過ぎて、自分たちが育ってきた根っこっていったらいいのですかね、そういうところを何か見失っているのかなという気もします。というのは、今いろいろな意味で、子どもたちがここで育ち、高校を出て、今度は大学に行くと外へ出て行ってなかなかこっちへ帰って来ない、どんどん人口が減少してしまう、こっちが一生懸命育てるだけで、何か東京に人材を供給しているような、そんな感じになっています。東京一極集中主義になってしまっていて、地方のほうは人がいない。また一方で、駒ヶ根市の中もそうなのですけれども、企業の皆さんが非常に頑張っているのです、今、有効求人倍率が1.7、8、9という状況です。働き手がいなくなると、企業は働き手のいるところにどんどん移って行ってしまいうのですよね。そうすると、働く場所がないから人が来ない、来ないから企業がなくなると、そういう状況にしないように、ぜひ、自分たちが生まれ育った故郷は自分たちで責任を持ってこれからも守っていくというようなことをメッセージとして伝えていかなきゃいけないと思います。そういうこともあって、今、新たに歴史伝統やなんかも子どもたちに、キャリアフェスもその一環だと思うのですけれどもやっています。そういった

ことというのは、地域を磨くことになるし、その地域の魅力を高めることになるので、今、外国人、特にヨーロッパ系の人たちが来るところというのは、ある程度お金を落としてくれるような観光客の皆さんが訪れるようなところというのは、やはり文化度が高いところが非常に多いですね。これからこの地区は、リニア新幹線、三遠南信自動車道が開く、何もしないで今のまま行ったら、またストロー現象で吸い取られてしまう。それから、また大手のいろいろな人が出てきて、ぼんと何かをつくってやってしまう。そういうことにしないように、やはり地域みんなの、自分たちが生まれ育ったところを学び、そういう学んできたところを誇りに思って外に発信する、また、そういうところに魅力を持っていろいろな人が訪れて来ていただくという、やはり、そういった地区に是非していきたいなという強い思いを持っているものですから、文化、歴史、伝統を生かしたまちづくりをしていかなきゃいけないと思います。

今、街の中の開発やなんかも、商店街の皆さんを含めていろいろ話をする中で、キーワードが駒ヶ根テラスってなったのですよね。今までは、どちらかというと東京志向というのですかね、やはり。通りの名前も「銀座」というのが全国どこでも、広小路、もともとこの地域にあった名前じゃないのですよね。ここの地域は、桜木町だとか、そういう昔の名前で、みんな東京東京って向いていったんだけど、やはり振り返ってみたら、全部金太郎あめみたいなまちになっちゃって、この駒ヶ根を改めて見たらどういふ街かって言ったら、やはり、この山、山岳観光、この谷に守られたこの地区だねと、やはりこれからの街も駒ヶ根テラス、街の中の山と一体になったまちづくりをしようって、そういう意味では、駒ヶ根テラスが始まり、J O C Aさんが来て、それから生涯活躍のまちづくりというのをしていきますけれども、そういう中では、やはり、今までのほかから何かを持ってくるというよりも、今自分たちが育ってきたところのことをもう一回大事にしながら、そういうまちおこしをしていけば、また多くの人々が訪れて新たな産業になる。今、女性の働く場所が少ないのですよね。ここは生産業が中心なものですから、女性の皆さんが働く場所が少ないのですよね。だから、第1次産業もそうなのですけれども、やはり、もう少し若い人たちの魅力になるような、露地型、施設型、加工型、それから、さっき言ったように観光をメインにしたようなことをしていければ、そこに女性の皆さんの活躍の場所も増えるのかなと思います。だから観光DMOをつくるなどして連携をしながら。

よく外国に私が行ったときに、自分たちが育ったところ「どういふところですか。」って聞くと、歴史を言える子どもたちが多いのですよね。でも、日本の場合、なかなか我々も聞かれても答えられなかったのが、これからは、子どもたちには、ぜひ、私どももそうなのですけれども、自分たちが生まれ育ったところに誇りを持って、外から来た人が、あそここのところへ行けば、みんな自分たちの地域のことを誇りに思っているというようになればいいと思います。

今、外から来た人が一番びっくりするのは、中学生があいさつしてくれること、横断歩道を渡った後に頭を下げるとかみんなびっくりしていますね。そういったものは大事にしていけば、要するに、外から来た人を見ると、ここの子どもたちはあんなにしっかりしているということは、自治体が、要するに安全・安心のまちというふうに見られるのですよね。ですから、そういうことの積み重ねがものすごく大事だと思っていますので、改めて歴史、伝統、文化ということを大事にしていくことによってまちの魅力を高められていけたらいいのかなと思っています。

○唐澤委員 私もそう思います。やはり、文化は共同体の中であって、みんな共通として生活の中にあることだと思いますので、それを市や国が先に立って、こういうのを作りましようとい

うのは評価が難しいので、今あるものを守る、みんなに知ってもらおうということがすごく大事だと思います。そんな中で、フットパスなどいいものをつくっていただいているので活用していくことはすごく大事なことだと思うのですけれども、文化と芸術は、また対極なものだと思うので、芸術はどうするかということは、新しい公民館もできてあの辺が拠点になるようなので、その中で、みんなが共通して、市民も納得してこれだったら駒ヶ根でというものを、その中で少し話をつなげれば、エル・システムも力を入れてやられているのですけれども、まだ知名度も低いと思うのですが、この進め方によって、「駒ヶ根っていえばエル・システムをやっているよね。」と認知されるぐらいにしていけば、一つまた何か生まれると思います。

○杉本市長 エル・システムも始めて2年目です。5年後にはオーケストラくらいになればいいなど。相馬市が5年で、本当に、プロとオーケストラをしましたが、あれを聞いて私感動しましたね。今回も、子どもたちが12月に行って一緒にやったので、また大きく成長するのではないですかね。今、各小学校に呼びかけて、人数も100人近くになりましたかね。積み重ねていって、小学校の人たちが中学校に行き、それがまた中学で広がっていく、1年や2年じゃすぐに成果が出ませんので、5年スパンぐらいで、一回形になれば、おそらく多くの人にまた見ていただけるということです。

私の理想は、子どもたちだけじゃなくて、例えば我々の世代って、家庭がそんなに裕福じゃなかったんで、バイオリンなんて弾きたくても、そんなのとても買えないじゃないですか。今度は、子どもたちだけじゃなくて、大人にも広げていけたらと思っています。それで、将来的には、子どもたちと大人も一緒に演奏する。今そういう方向に持っていきたいと思っています。

今、とりあえず子どもたちからスタートしていますけれども、そのうち子どもが先生になって我々も教わると。我々の世代というのは、なかなかそういうことができなかったので。

今は、年齢もどんどん寿命が延びているじゃないですか、私たちも県の市長会も中心になって、高齢者の定義を65歳から75歳に変えてくれと言って、今、運動をやろうと思っているのですけれども、やはり、65歳定年で家に入っている人たちでも、例えば自分は今までやったことないことを少しやりたいというチャンスを与えられるようなことにもつなげていければ、一つの駒ヶ根市の特色になっていくのかなと。そのためにも、拠点となる小さなホールを今度つくらせていただきますので、そういうところを使ったりして将来的には子どもから大人まで広がっていく。芸術もいろいろありますので、いろいろな発表の場にもなれば、小ホールもあるということで、そういう相乗効果になっていき、成熟した都市というのは、心の豊かさというのは、私は、そうなるということがまちとしての魅力も高まると思いますので、ぜひ、そこまでつなげていきたいと思っています。だから、5年くらいは子どもを中心にして、それから広げていけたらいいのかなと思っています。

エル・システムの一番良いところは、集団で音楽を楽しむということですよね。それが長続きしているところかなと思います。今まで日本の音楽の普及って、一人一人の対面でレベル上げるとかをやっているあまりおもしろくないんです。おもしろくないというか、ついていけない子が出てしまいます。でも、エル・システムは、みんなです。個別練習って余り少ないです。みんなと一緒にやって音楽を楽しむというのが主体ですね。

この前もNHKの「ラジオ深夜便」というラジオを聞いていたら、相馬市の指導をしている人がずっとバイオリン教室をやっている、それで、エル・システムを手伝ってくれというので行く

と「目からうろこ」で個人練習がないことにびっくりしたと、個人練習がないと、子どもたち本当に楽しんで、音楽を楽しんで、どんどん全体のレベルが上がっていくと、それで、私は今まで何をしていたかって戸惑っているという、そんな話をしていました。ですので、やはりこれからは、音楽、まさに音を楽しむ、そういうことにエル・システムは良いと思うので、みんなで音を楽しむようなことを広げていければと思っています。

○唐澤委員 指針を決めて行くに当たって、一番の共通の文化は、やはり駒ヶ根らしさということが市長さんの言われたように山だと思っています。そことエル・システムをうまくつなげられれば良いと思います。

○杉本市長 エル・システムもですが、子どもたちは和楽器隊もやってくれているじゃないですか。ああいうのもすごく大事にしたいと思うのですよね。子どもたちが日本の伝統文化的な和楽器、前の北原さんが一生懸命やってくれているので、あれを、ぜひ一緒にコラボしてみれば良いと。エル・システムのほうでも、エル・システムってだけじゃなくて、同じ手法を使っているいろいろなジャンルのできるので、ぜひ一緒にやりたいということを言われているので。

○北澤教育次長 そうですね。一緒にやっています。ありがとうございます。それでは続きましてお願いします。

○氣賀澤委員 小中学校等のエアコンのことですけれども、ことしは子どもたちもかなり具合が悪くなる子がいたりとか、お昼ぐらいになると熱中症っぽくなって家に帰ってしまうような子がいたりとか、そういうことをよく聞いたのですけれども、それで、勉強をするに当たって、やはりよい環境で学習できることが一番だと思うのですけれども、その進み具合をお聞きしたいのですけれども。

○杉本市長 設備って順番でやっていくのですけれども、エアコンだけは、順番というわけにはいかないのでも今回は特別教室まで一斉にやることにしました。ですので、全教室をエアコン化します。業者が間に合うかどうかは分からないけれど、今からやって夏までには全部間に合わせたかと思っています。あと、保育園、幼稚園のほうも全て入れるということで今予定しています。予算化は全部させていただいて、国のほうの予算がついたので全教室に入れることにしました。

○氣賀澤委員 3階とか2階とか、3階からとかではなくて全部ですか。

○杉本市長 工事の順番はどうなりますか。

○北澤教育次長 工事の順番についてはまだ決まっていないです。

○杉本市長 いずれにしても、予定としては、来年使うまでには全部の教室に入れるという予定ですが、ベランダの外に室外機を置けるようなところは早いと思います。それがないところは、少し工事が大変になる可能性があるかもしれないです。

○北澤教育次長 先日の校長会でも、空き教室をうまく使ってというように、支障のないように協力をしてぜひやっていただきたいということでお願いをしたところです。

○杉本市長 工事に取りかかるのはいつからになりますか。

○北澤教育次長 設計が1月末ぐらいです。

○杉本市長 1月末ですか。

○北澤教育次長 はい。

○杉本市長 設計が1月末に上がるので、発注してできるところからどんどん入れていきます。

○杉本市長 だから、できれば3月の休みだとか、5月の連休だとか、そういうときを利用して、あとは、平日でも空き教室やなんかをうまく使いながら、工夫して何とかして夏までには全教室に間に合わせたいと思っています。

エアコンもだけど、プールなどが熱いというのはどうなっちゃうかね。ことしは暑くてコンクリートが熱くなってできなかった、使えなかったようなときがあったけれどプールはどうなるのかね。

○北澤教育次長 ことしは、南小は夏のプールをやめました。あとは、午前中だけにしたり午後はやめたりしていました。

○杉本市長 温泉みたいになったようだからね、エアコンだけでなく、ほかの部分でも少し気をつけなきゃいけないことがいっぱいあると思うので、こんなに暑くなると、プールなんかもう使えない。

○本多教育長 時間をずらすなど少し工夫をしないといけないですね。

○唐澤委員 エアコンに関連していいですか。

○北澤教育次長 どうぞ。

○唐澤委員 エアコンを全部一斉に入れると、やはりランニングコストが大分かかると思うのですけれど、ある程度の目途というのはあるのですか。

○杉本市長 ランニングコストだけでどのくらいでしたっけ。

○北澤教育次長 試算では650万～800万円くらいです。

○杉本市長 ただ、それも暑さによるのと、どのくらいエアコンを動かすかによって違うので、やってみないと少しわからないですね。非常用電源でやったらどうかといったけどだめだったよね。

○北澤教育次長 そうですね。

○杉本市長 本当は、たまにしか使わないので非常用電源でエアコンを回したらということをし言ったのですけれども、安定しないということで。電気料金も契約によって大分違うよね。

○北澤教育次長 そうですね。

○杉本市長 また、その辺も一緒に考えます。今のものでやると650万円くらいということですよ。

○本多教育長 ことし、中沢小学校がミストを導入したのですね。何回聞いても中沢小ですが、設置も簡単で、穴のあいたホースで非常に快適だったということです。だから、併用して常にエアコンが使われたらたまらないので、そういうものをうまく併用しながらやっていくということが大事だと校長会でも話はしております。

○北澤教育次長 よろしいですか。

○唐澤委員 はい。

○下島教育長職務代理 資料の1ページにあります「地域に開かれ、地域に支えられる学校づくりを進めます」の中のキャリアフェスの開催についてということで、去年東中でやって、ことし赤穂中、さらには、この小学校版的な開催で南小を見せていただいたのですが、小学校では少し無理かなというのを私個人的な感じを受けたのですが、中学生に対するキャリアフェスについては非常にいい企画じゃないかなあと思っておりまして、よく市長さんも言われる、東京へ大学なり専門学校なりで行くけど帰ってくる人が非常に少ないという関連もありまして、このキャリアフェスを開催することによって、少しでも、またこの地域へ、ふるさとへ戻っていただく、これ

がひとつ大きく関連するのではないかなあと感じております。新しい企画でありますので、その辺の費用なり、開催するためのエネルギーが必要だと思えますけれども、去年ことしとやった中で反省に立って、また、ぜひいい企画として取り組んでほしいなあと感じておりますがいかがでしょう。

○杉本市長 私は、ことし赤中のキャリアフェスを少し見させてもらって、やはり子どもたちが自分でどこを見たいか決めて行くというのはいいなと思いました。子どもたちが自ら大事なところ、例えば、色んな仕事をしている人の話を聞くというときも、先生は見ているだけで、子どもたちが自主的に、どこに行きたいと、どこの企業を自分たちが行って見るということ、だから、中学生くらいから自分たちが何かを決めてやるという習慣をつけるという意味でも非常にキャリアフェスっていいなあと感じて見していました。

また、みんながにこやかで生き生きしていたので、あれがものすごく良かったです。あと、先生方も任せているというところがよかったし、行った企業の皆さんも、子どもたちと接するというところでまた学ぶところがあって、みんながいい経験だったので、ぜひ、ああいうことを進めていければ、こういう仕事をやってみたいなあ、こういう仕事をやるためにはこういう高校へ行きたいなああって、こうなっていけば一番理想ですよ。自分の目指すものを自分が決めて、それに向かって何かをやっていくということが本来の人間の生き方なので、よく赤穂中学校のところに「正しく働いて、正しく生きる」って天野貞祐さんの話が、ちょうど僕が中学2年のときの聞いてきたのですが、あのときの天野さんの言った言葉を本当に今でも鮮明に覚えているのですよね。人間が生活しているというのは、何かをつくり出しているのが人間の生活なので、人間って、何もつくり出さない人は人間としての生活をしていないというようなことを一生懸命言っていて、「君たちも、これからいろいろの何かやるときは目標を持って、ちゃんとそれに向かっていけ。」と、「しかし、そのためには正しい生き方をしなきゃだめだぞ。」と、「人に迷惑をかけるようなことをしちゃいけない。」ということをおっしゃっています。今回、見ていて、子どもたちが自分で、ああ、こういうところに行きたいなって、そういう動機づけになって、「こういうところに行くためには。」って聞いたら「こういう勉強くらいしなきゃだめだぞ。」って言われれば、それじゃあもっと勉強しなきゃいけないとか、こういうふうにつながっていければ、キャリアフェスをやることによって自分の人間形成の一步にもなっていくのかなあと感じて見ました。

私は、1年生は1年生で、また2年生3年生で思っていることが違うと思いますので、継続していけば、そういう意味では自分づくりにもつながるのかなと思いました。子どもたちが自分であそこへ行きたい、ここへ行きたいって、みんな結構勉強しているのですよね。子どもたちが自分のこれからの将来こういうふうになりたいということを見つけ出すにも非常にいい機会かなと思います。実際に何をつくっているのかを学んで見られるわけですからね。楽しく聞けるわけですから。今まではそういうことがなかったのです。

また、学校の先生たちにも話を聞いたりして、2年に1回ぐらいがいいのか毎年がいいのか。確かに、東中の場合は生徒さんが少ないので、非常にやりやすいと思います。赤中は生徒が多いので、その辺が、やはり苦労されているみたいでしたかね。東中のほうは一斉にできたでしょう。1年生から3年生まで。でも、赤中は、1年と3年とか、1学年が教室で休んでいるのですよね。

○北澤教育次長 あれは苦肉の策で、一生懸命検討させていただいたのですが。

○杉本市長 あのやり方はもう少し研究しないといけないのかもしれないなあ。

○下島教育長職務代理者 職場実習体験のような特定のところへ行くものもあるけれど、それはもう限られた職場だけだよね。これは、こういう多くの企業が一堂にして体験できるということだから。

○杉本市長 だから、こういう仕事をする話を聞いていても、何かすごい、みんな、大勢いるところと少ないところとあるのかなあと子どもたちが気を使いながら行っていたのです。見ていてすごいなあと思いました。2回変えるので、1回あそこへ行って、また違う会社の話を聞くという、ああいう中で、自分の将来を決めていければ、ああいう点ではいいなあと思って見ていましたね。

それで、子どもたちに「どうだった。」って聞いたら、「いや、今度はこういうところで仕事をやりたい。」と言っている子もいたから、やはり良かったなあと思っています。そうすると、これからの進路も、高校も自分で選んでいるんだか、先生が決めているんだか少しわからないようなところがあるじゃないですか。偏差値中心主義になり過ぎているような気がするので、それよりも自分がやりたいことを学ばせていったほうがいいというような気がしますよね。やはり、どうしても、これからは、もう中学生くらいからは、自分が何をやりたいかというくらいは自分で決めていくような、そういう方向性に持っていければいいのかなあと思うので、そういう意味では、このキャリアフェス、非常に良いと思います。

○下島教育長職務代理 ありがとうございます。

○杉本市長 どこかに行ってもまた帰ってきて、駒ヶ根のこういうところに勤めたいとなっていけるようにできればと思います。高校、郷土愛プロジェクトのほうでは、先生たちが地元を知らないから、経営者協会を中心に高校などの先生たちにも地元の企業を知ってもらって、進路指導をするときに、今まではどちらかという、どここの大学へ行けって言うのだけれど、そうじゃなくて、こういう何々の会社へ、こういうところで何をしたいか決めろと、その会社へ行きたいと思うなら、こういう大学へ行っただけで学んできたほうがいぞと、こういうふうに先生たちにも言ってもらいたいということを今やっているのです。

今、その流れで、義務教育のほうは、もう私も一生懸命言っ、前に教育配置、一番新任のところって自分が全然育っていないところに配置したので、まず、第1回目は極力自分たちの育ったところに配置してもらおうように、ことしから変えてもらったのですかね。基本的に4ブロックずつ。

○本多教育長 来年度です。

○杉本市長 来年度からですか。もう、そういうふうにしてもらって、先生たちだって全然知らないところへ行って子どもたちに歴史、伝統、文化を教えろと言っても無理です。だから、将来的には、教員の採用も4ブロックぐらいでできるようにしてもらったほうがいいなあというのが思いですね。そうすれば、極力その地域のことを知っている先生が地域の子どもたちを教えてもらえると。長野の先生が駒ヶ根に来て、駒ヶ根のことを教えろと言ったって、長野と駒ヶ根じゃあ文化が全然違うんだから、もう、先生がかわいそうと思います。先生、どうですか、今まで遠くへ行きましたか。

○本多教育長 長野のほうへ。

○杉本市長 長野はどうでしたか行って見て。

○本多教育長 1から全部勉強しました。

○杉本市長 そうなっちゃうでしょう。だからね、これからは、子どもたちを育てる仕組みというのを変えていかないといけないなどは強く思っています。やはり声に出していかなきゃ変わらないし、かつては、我々の世代というのは、地元本当に住めるということが少なかったんで、どうしても団塊の世代の人たちは出ていってしまったというところもあるのですよね。今はそうじゃないので。こういうことを通して子どもたちにメッセージを伝えていかなきゃいけないのかなと思います。また、この運営の仕方皆さんの意見を聞いてもらって。

○北澤教育次長 そうですね。

○杉本市長 また考えてください。

○北澤教育次長 長続きするような形で、負担が少なくて長続きする形も含めて検討したいと思いますのでよろしくお願いします。

ほかに予算の関係で何かございますか。

○唐澤委員 この間、新聞で放課後の子どもの預かりのところに、もう人数の取り決めという制限をなくして、1人でも見られるというふうになったと聞いたのですよね。駒ヶ根で子育て世帯の応援ということで、「まあるくなあれ♪」とかも32年度に民間に委託するというのも、この間少し聞いたのですけれども、そうやってどんどん人を減らしたりとか民間に委託したりしていくと、質が落ちていくおそれもあるのではないかなと思うのですけれどもその辺はいかがですか。

○杉本市長 どちらかという、「まあるくなあれ♪」もそうなのですけれども、行政が主体で運営していたのですけど、今回、特に子育てしていた団体の皆さん、「ぐりとぐら」の皆さんだね。そちらにお願いしています。だから、かえって今うまくいっていると思います。子育てをやった人たちが頑張ってくれているので。今、直営でその人たちにお願いしています。

○唐澤委員 事業者じゃなくて民間でのグループですか。

○杉本市長 そう、そういうところです。

○北澤教育次長 そうですね。

○杉本市長 要するに、私の思いは色んな施設やなんかを運営するときって、人がころころ変わるとどうしてもノウハウの蓄積にならないですよね。だから、そういうことを長くやってくれるようなところにしていったほうがいいのかと思っています。例えば、民間に委託しているのは、市営住宅の管理やなんかも今度は住宅供給公社にお願いしたのですけれども、住宅供給公社は県営住宅も両方管理しているので、今回そこに委託したことによって、県営住宅も市営住宅も一緒の窓口でやってくれるようになったと同時に、周辺やなんかのノウハウがずっと積み重なっているのでかえって早くいろいろとやってくれます。ですから、市民にとって一番は何かあったときに即対応できるような、そういうところを今考えていますかね。

行政が自分でやっているのと、どうしても遅いって言われるようなところは考えています。それと、これから全体の人口やなんかを考えても、もう人口減少は避けて通れないと思うのですよね。そうした中で、やはり市の財政を考えた場合に、人件費の占める割合がものすごく多いものですから、その人件費をどうしていくかということがあります。だから、行政、駒ヶ根市の税金をそういう人件費だけじゃなくて、市内のいろいろの企業や事業をやっている皆さんにも担っても

らって、なおかつ財政の健全化もできれば、同じお金の中でも市内を循環していればいいのかと思って、極力地元の皆さんにいろいろお願いしたいと思っています。

○北澤教育次長 ほかにはよろしいですか。では、予算以外に何かあればですが。

○福澤委員 駒ヶ根市では、戦没者の追悼式、ここら辺ではみんなやっていないけど、駒ヶ根市ではやっておりますので、毎年出させてもらっていますけれども、あそこへ行って、中学生が現場まで行って見てきて、その感想を聞くたびに、見た力というのはすごいなあということをいつも感じるわけですが、それで、遺族会のほうも高齢化になって、この話はいつまで続けていけるのかなというようにことも心配しているような状態です。中学生が一番感受性が強いというところがあると思うのですが、これは市の全体の共有という形で思ってもらえれば良いと思いますが、やはり中学生、若いうちに1度、広島へ行って現場を見てもらうということは、教育としてとても効果があるのではないかなという気がしますので、できればみんな行けばいいのですが、修学旅行か何かでいけばいいと思いますが、遺族会の皆さんからも、東京なんかへ行かないで、ああいうところへ行けと言われてしますので、私も気持ちとしてはそういうふうに思います。

○杉本市長 私も一緒に子どもたちと行ったときもそうなのですが、現場から資料館に入る前のところで何もそういうことを言わないで置いて、爆発サイロのところの中に入ってずっと帰ってきて出てきたときの顔つきがもう変わると同時に、あれだけで一回りも二回りも成長しますね。あそこへ行って、また式典に出るだけで、特に、あの式典の中で小学生の作文がすごい、あれでみんな感動しますかね。やはり、ああいうことを経験するとしないじゃ違うと思いますので、また教育委員会の中でも考えてみてください。

今、そういう意味では、ネパールもそうなのですが、あそこも非常に貧しい国なので、ああいうところに行って見るとまた違いますね。ネパールに行った子どもたちも、行くときと帰ってきたときで大きく成長するし、何か、震災やなんかが起きたときに、みずから立ち上がって、地元を支援しようって自分たちが動き始めるとかね、ああいうふうに子どもが成長するのかなと思うと非常にやってよかったなあと思います。

結構、広島やなんかに行ってから、そういうことに取り組んでいる子どもさんたちも多いみたいですね。ここの近辺では出しているのはうちくらいだね。周りの市町村はない、駒ヶ根市くらい。私がこういうふうにやっているって言ったら、磐田市の渡部市長さん、すぐ、自分たちも出すって、今、磐田市も出しているので行けば一緒になります。子どもたちを出しているところは残念ながら少ないです。

○福澤委員 大人になると、あそこへはもうなかなか行かないですからね。そういう機会があっただけ行けば一番いいと思うけれど、私もこの間、そう思って1回行ってきたけれど、やはり違うなあということで。

○杉本市長 行くと全然違いますよね。

○福澤委員 2回目だったけど、違うなあと思いました。

○本多教育長 市長さんが言われた資料館の展示も、こうやってやると、こうスイッチが入って、こう3D化じゃないけれど、何かこうその場にいるような雰囲気を感じただけけれど、だんだん顔つきが変わって、出てくるときは全然違う顔みたいになって、ことしもそうでした。今ちょうど改装中なものだから、実物をたくさん見るということができなかつたのですよね。

○北澤教育次長 ほかにはよろしいですかね。

それでは、時間になりましたので、このあたりで会議を閉じたいと思います。

これから新年度の予算の編成に入っていきますので、いただいた意見等については、事務局で検討、調整をして進めていきたいと思います。

次回については、新年度明けて4月ということ考えておりますのでよろしくお願いします。

それでは、以上をもちまして第3回の総合教育会議を閉じたいと思います。

ありがとうございました。

午前11時10分 閉会